

2009年12月21日

各位

日油株式会社

東京大学、東京大学TLOおよびナノキャリア株式会社との「カチオン性ポリアミノ酸誘導体を用いた遺伝子治療用ポリマーミセル型キャリア」に関する独占ライセンス契約の締結について

この度、弊社は、国立大学法人東京大学及び株式会社東京大学TLOが所有し、ナノキャリア株式会社との間で独占ライセンス契約が締結されている出願特許^(注1)のうち、「機能性タンパク質^(注2)を発現する遺伝子を使用した遺伝子治療^(注3)分野」について、弊社が希望する国内外における再実施許諾権付の独占実施権を弊社に許諾する独占ライセンス契約を締結しました。

本契約の対象技術は、東京大学 片岡一則教授のグループが開発したカチオン性のポリアミノ酸誘導体からなるポリマーミセル型キャリアに関するもので、このキャリアとマイナスに荷電した遺伝子により高分子イオン複合体を形成させ、ナノサイズのみセルとする技術です。本発明のポリマーミセル型キャリアは、遺伝子を目的の細胞内の細胞核まで効率的に運搬し、治療に必要な遺伝子機能を効果的に発現させるものです。

本発明に基づくポリマーミセル型キャリアは、完全合成系のポリマーから構成されるもので、従来の技術に比べて、毒性を低く抑えつつ遺伝子の導入効率を高め、遺伝子の機能を発揮しやすくしたものです。

本契約締結により、弊社は、この高機能ポリマーミセル型キャリアを弊社のグローバルネットワークを通じて、遺伝子治療薬を開発されている製薬企業に提供していく予定です。

(注1) 出願特許

この出願特許は、国立大学法人東京大学及び株式会社東京大学TLOが所有している特許です。当該特許に関しては、国立大学法人東京大学、株式会社東京大学TLO及びナノキャリア株式会社の三者間において独占ライセンス契約が締結されています。今般、弊社が「機能性タンパク質を発現する遺伝子を利用した遺伝子治療分野」において、ナノキャリア株式会社から再実施許諾権付の独占実施権につき、許諾を得たものです。

(注2) 機能性タンパク質

機能性タンパク質は、生体にとって重要な機能を果たす抗体、酵素などを含むタンパク質をいいます。遺伝子によりこの機能性タンパク質を効果的に発現させることで、治療効果を高めることが期待されています。

(注3) 遺伝子治療

遺伝子治療は、細胞や組織に遺伝子を導入することで異常な遺伝子を修復し、疾患を治療する方法です。遺伝子治療は、従来から研究が行われていましたが、毒性が低く安全性の高い高分子ミセルなどの人工ベクターを使用する手法が注目されています。

以上